生活リハビリテーション

~ 生き活き計画

リハビリテーションの醍醐味は社会に再び適合すること、要するに社会復帰です。社会の最小単位は家族と言われており、真っ先に思い当たるのは自宅への復帰である。ただ、いろいろな要因から自宅に復帰できる方は限られています。

では、リハビリテーションは自宅に復帰する方だけ提供するものなのか?

答えは No (ノー)です。病院に入院されている間も社会との繋がりはあります。その社会において患者様は『生活』をしていかなければいけません。この『生活』の要素が一つでも欠けていたら QOL (生活の質)を満たすことができません。要するに生き活きとした生活を送ることができなくなります。

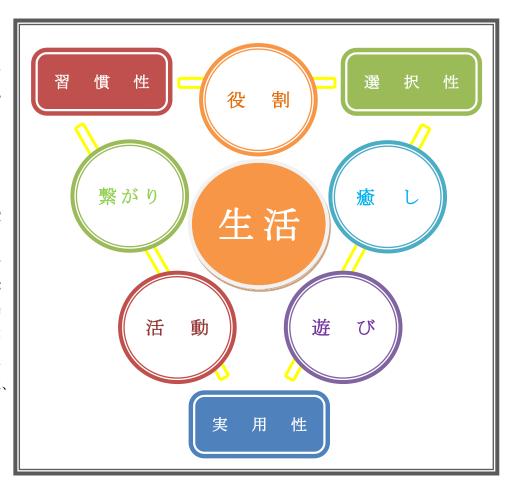
寝たきりで動けない方もおられますが、生き活き(生きている証)を提供することは可能だと思っています。

生活とは?

皆さんが普段過ごされている生活 を思い返してください。朝起きてか ら夜寝るまで、または寝ている間に おいても全く同じ方はいませんよ ね?

生活を構成する要素としては、役割(存在的役割、生産的役割など)、繋がり(人間関係、コミュニケーションなど)、活動(ADLなど)、遊び(趣味、遊び心など)、癒し(身体的休息、精神的休息など)の5つの要素で構成されています。またその生活要素を修飾するものとして習慣性、実用性、選択性があります。

生活リハビリテーションとはセラ ピストによる治療や訓練を行うこと



により、獲得した機能や動作能力などを看護師や介護士、あるいは家族とともに生活の中で使っていくことで実 用性や選択性、習慣性に富んだ生活能力を獲得することができます。

これらの要素を一つずつ改善していくことにより、生き活きとした生活を取り戻すことができます。